

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果（H28. 4/6～20）

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内で収集した大気1mあたりの浮遊放射性物質の濃度(ミリベクレル/m³)を測定しました。※下段()内は検出限界値。

(ミリベクレル/m³)

測定地点			4/6～4/13	4/13～4/20
小高区	川房公会堂 (川房)	Cs134	0.027 (0.014)	0.026 (0.015)
		Cs137	0.099 (0.015)	0.140 (0.014)
	金房小学校 (飯崎)	Cs134	0.020 (0.013)	0.033 (0.017)
		Cs137	0.098 (0.014)	0.160 (0.018)
	塚原公会堂 (塚原)	Cs134	不検出 (0.015)	0.024 (0.013)
		Cs137	0.039 (0.014)	0.073 (0.012)
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	Cs134	不検出 (0.013)	不検出 (0.021)
		Cs137	0.062 (0.013)	0.043 (0.016)
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	Cs134	不検出 (0.014)	不検出 (0.025)
		Cs137	0.035 (0.012)	0.045 (0.018)

【お知らせ】平成28年4月から、試料の採取方法が7日間の連続吸引に変わりました。

測定地点			4/6～4/13	4/13～4/20
原町区	横川ダム (馬場)	Cs134	不検出 (0.013)	不検出 (0.015)
		Cs137	0.065 (0.013)	0.090 (0.013)
	原町保健センター (小川町)	Cs134	不検出 (0.026)	不検出 (0.020)
		Cs137	0.049 (0.019)	0.071 (0.018)
	高平生涯学習センター (下高平)	Cs134	不検出 (0.016)	不検出 (0.019)
		Cs137	0.038 (0.015)	0.061 (0.019)
	市立総合病院 (高見町)	Cs134	不検出 (0.018)	0.015 (0.013)
		Cs137	0.079 (0.015)	0.081 (0.014)
	大原公会堂 (大原)	Cs134	不検出 (0.021)	不検出 (0.019)
		Cs137	0.068 (0.018)	0.110 (0.018)

※検出限界値はおおむね0.02～0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、放射能濃度が検出限界値未満の場合、「不検出」と判定されます。

★渡邊正己京都大学名誉教授 (市放射線健康対策委員会委員長)による解説★

前回解説した通り、平成28年4月から放射能サンプリングと測定条件が変更されました。それによって放射能の検出感度が上がり、放射能検出限界値が小さくなったことで各測定地点でセシウム137の飛散が観測されるようになりました。

一方、飛散している放射能濃度は、4月以前の測定法の結果に比べ1/10程度に低下しています。今回の最大値は0.16mBq/m³ですが、仮にこの濃度の空気を1年間吸い続けたとしても、それによる内部被曝量は、およそ0.00005mSvで、天然の放射能を吸い続けた場合の10,000分の1程度で健康に影響を与えることはありません。